これから5冊しか読めないとしたら何を選ぶ？

～篠崎図書館スタッフによるセレクション～

今年も読書週間特別企画として、篠崎図書館全スタッフが本を紹介します。今回は一人5冊ずつ選びました。こちらに掲載した本は大特集コーナーで10月末まで展示します。

表紙

『書名』
著者名
出版社
請求記号
所蔵館

本の内容紹介

こちらもおすすめ

『新撰・新訳悪魔の辞典』
A. ビアス著
講談社
937ヒ
篠崎ほか所蔵

簡単に言うと国語辞典のような物なのですが、相当ひねくれている辞書です。皮肉とブラックユーモア満載の解釈しかしておらず、思わず笑ってしまうほどの面白さです。物語ではないのでどのページからでも読める手軽さがよく、こういう本が手元にあると安心します。

『古事記』 西宮　一民校注　新潮社　918シ　篠崎ほか所蔵
『クイーン全詩集』 クイーン著　シンコーミュージック・エンタテイメント　931ク　篠崎ほか所蔵
『捜神記』 干宝著　平凡社　923カ　篠崎ほか所蔵
『人間の大地』(「サン＝テグジュペリ・コレクション3」所収) サン＝テグジュペリ著　みすず書房　958サ3　篠崎ほか所蔵

『だれも知らない小さな国』
佐藤　さとる著
講談社文庫
BFサ
篠崎ほか所蔵

主人公の「ぼく」は、小学生のころ、小指ほどの大きさの「こぼしさま」＝コロボックルと不思議な出会いをする。大人になってから再会を果たし、彼らの小さな国を守るための行動を起こす――という物語です。「ぼく」とコロボックルたちの微笑ましいやりとりと、その唯一の理解者となる「おちび先生」と「ぼく」の出会いのいきさつに、ほんのりと幸せな気持ちになれる作品です。

『新編銀河鉄道の夜』 宮沢　賢治著　新潮文庫　BFミ　篠崎ほか所蔵
『芙蓉の人』 新田　次郎著　文春文庫　BFニ　篠崎ほか所蔵
『舟を編む』 三浦　しをん著　光文社　Fミ　篠崎ほか所蔵
『レオ・レオーニ希望の絵本をつくる人』 松岡　希代子著　美術出版社　726マ　篠崎ほか所蔵

『小説上杉鷹山』
童門　冬二著
集英社文庫
BFト
篠崎ほか所蔵

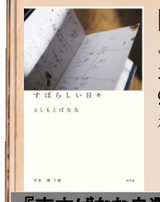
上杉謙信を藩祖とする米沢藩に養子に入った鷹山は、多額の借金により廃藩寸前の状態にあった藩政を立て直すべく、改革を実行する。改革反対派の抵抗や仲間の裏切りにも挫けず、信念を貫いて米沢藩を復活させた鷹山の伝記的小説。新しいことを始めようとする時に読むと、勇気を貰える私の座右の書です。

『小説立花宗茂』 童門　冬二著　集英社文庫　BFト　篠崎ほか所蔵
『柳生宗矩』1～4 山岡　荘八著　山岡荘八歴史文庫　BFヤ1～4　篠崎ほか所蔵
『マンガ禅の思想』 蔡　志忠作画　講談社　188サ　篠崎所蔵
『水木しげるの妖怪地図』 荒俣　宏監修　平凡社　388ミ　篠崎ほか所蔵

『幸福論』
アラン著
白水社
135ア
篠崎ほか所蔵

難解で観念的な哲学書とは異なり、わかり易い本です。日常生活の具体的な問題への解釈や幸福になるためのヒントが綴られています。一節紹介しますと「幸せだから笑うのではない。笑うから幸せなのだ。」 時々、読み返しています。

『人間の土地』 サン＝テグジュペリ著　新潮文庫　B953サ　篠崎ほか所蔵
『1ドルの価値／賢者の贈り物』 O. ヘンリー著　光文社古典新訳文庫　B933ヘ　篠崎ほか所蔵
『漢詩の絵本』 加藤　徹編訳　ナツメ社　921カ　篠崎ほか所蔵
『アルケミスト』 パウロ・コエーリョ著　角川書店　969コ　篠崎ほか所蔵



『すばらしい日々』
よしもと　ばなな著
幻冬舎
914ヨ
篠崎ほか所蔵

本好きに5冊だけというのはとても辛いこと。そこで、悲しい時に気分を上げてくれるこの本を選びました。本書は震災、老いや死などについて書かれたエッセイ集。その考え方は、日々の生活において大切なことに気づかせてくれます。読むと前向きになれる本です。読める冊数が限られるなら気に入った作家の作品を沢山読みたいものです。

『吉本ばなな自選選集』1　オカルト　吉本　ばなな著　新潮社　Fヨ1　篠崎ほか所蔵
『吉本ばなな自選選集』2　ラブ　吉本　ばなな著　新潮社　Fヨ2　篠崎ほか所蔵
『吉本ばなな自選選集』3　デス　吉本　ばなな著　新潮社　Fヨ3　篠崎ほか所蔵
『吉本ばなな自選選集』4　ライフ　吉本　ばなな著　新潮社　Fヨ4　篠崎ほか所蔵

『はっか油の愉しみ』
前田　京子著
マガジンハウス
617マ
篠崎ほか所蔵

“はっか”というとどこか古風なイメージがありますが、ミントの一種です。エッセンシャルオイルはかなり高価なのですが、はっか油は大変お手頃価格なので色々なものにアレンジして使うことが出来ます。この本はそんなレシピが満載です。家の中に爽やかなミントの香りが漂っていると気が晴れそうですね。

『アサーションの心』 平木　典子著　朝日新聞出版　361.4ヒ　篠崎ほか所蔵
『子どもといっしょに育つ魔法の言葉』 ドロシー・ロー・ノルト著　PHP研究所　379ノ　篠崎ほか所蔵
『りかさん』 梨木　香歩著　新潮文庫　JFナ　篠崎ほか所蔵
『ファミリーツリー』 小川　糸著　ポプラ文庫　BFオ　篠崎ほか所蔵

『バレエ・リュス その魅力のすべて』
芳賀　直子著
国書刊行会
769ハ
篠崎ほか所蔵

ニジンスキーが踊り、ストラヴィンスキーが作曲、ピカソが美術、シャネルが衣裳に参加する夢のようなバレエ団が、20世紀初頭に存在しました。今となっては舞台を実際に観ることは叶いません。せめて、数々のエピソードや全作品の解説が丁寧に語られているこの本を読んで、このバレエ団の魅力を堪能することにしましょう。

『たんぽぽのお酒』 レイ・ブラッドベリ著　晶文社　933フ　篠崎ほか所蔵
『謎の物語』 紀田　順一郎編　ちくま文庫　B933ナ　篠崎所蔵
『指輪88』 宝官　優夫ほか監修　淡交社　755ユ　篠崎ほか所蔵
『新編バベルの図書館』1～6 J. L. ボルヘス編纂　国書刊行会　908シ1～6　篠崎ほか所蔵

『シャーロック・ホームズの回想』
アーサー・コナン・ドイル著
光文社文庫
B933ト
篠崎ほか所蔵

今のところ、最後に読むならホームズさんでしょうか。特に彼のお兄様がお気に入りなので収録作品の中では「ギリシャ語通訳」がいいですね。某テレビ局の人形劇ではホームズの兄、マイクロフトがちょっと感じの悪い人になっていてとても残念です。ホームズのシリーズはあまりにも有名な小説なので内容は割愛させていただきますが、ご興味のある方は是非、ご一読下さい。

『白銀』上・下 メルヴィル著　新潮文庫　B933メ1・2　篠崎ほか所蔵
『三銃士』上・中・下 アレクサンドル・デュマ著　角川文庫　B953テ1～3　篠崎ほか所蔵
『吾輩は猫である』 夏目　漱石著　新潮文庫　BFナ　篠崎ほか所蔵
『三毛猫ホームズの推理』 赤川　次郎著　光文社　Fア　篠崎ほか所蔵

『ヴィンテージ・ギター・ガイド フェンダー編』
今井　康雅著
シンコーミュージック・エンタテイメント
763イ
篠崎所蔵

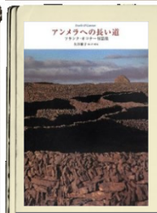
ヴィンテージ・ギターの魅力をここで説明するのは難しいのですが、非常に高価な物であるにもかかわらず多くのファンから支持されているものと認識して頂ければと。年代ごとで仕様が違うので眺めているだけで楽しいです。フェンダーは量産性にすぐれたデザインですが、そこに盛り込まれたアイディアがすばらしいです。

『聖書』 日本聖書協会　193セ　篠崎ほか所蔵
『小林カツ代料理の辞典』 小林　カツ代著　朝日出版社　596コ　篠崎ほか所蔵
『図解！！やりかた大百科』 デレク・ファーガストロームほか著　パイインターナショナル　049ス　篠崎ほか所蔵
『タイタンの妖女』 カート・ヴォネガット著　B933ホ　ハヤカワ文庫　篠崎ほか所蔵

『嘘つきアーニャの真っ赤な真実』
米原　万里著
角川書店
914ヨ
篠崎ほか所蔵

1960年、プラハのソビエト学校で出会った個性的な友人たち。その30年後、音信の途絶えた3人の親友を探し当てた著者は、ソビエト学校時代には知りえなかった真実に出会う。激動の東欧を生きた人々の記録であり、戦乱とは何か、祖国とは何かを考えさせられる一冊。

『台所のおと』 幸田　文著　講談社文庫　BFコ　篠崎ほか所蔵
『落窪物語』(「新編日本古典文学全集17」所収) 小学館　918シ17　篠崎ほか所蔵
『本は、これから』 池澤　夏樹編　岩波書店　020ホ　篠崎ほか所蔵
『ガリバー旅行記』 ジョナサン・スウィフト著　角川文庫　B933ス　篠崎ほか所蔵



『アンメラへの長い道』
フランク・オコナー著
未知谷
933オ
篠崎ほか所蔵

「フランク・オコナー短編集」を読み、小説を読む幸福感に酔いしれた。あまりの素晴らしさに、当時遠方に住んでいた親友に贈った。私がその時一番素敵だと感じている本の味わいを、離れていても共に感じて欲しかったからだ。そんなオコナーの作品は当館にはあと1冊しかない。読んでしまうのが惜しくて手に取れずにいるが、いつか必ず読みたいと思っている。

『言志四録』1～4　佐藤　一斎著　講談社学術文庫　H121サ1B～4B　篠崎ほか所蔵
『初版グリム童話集』1～5 グリム著　白水社　943グ1～5　篠崎ほか所蔵
『ルイ・パスツール』 ルイーズ・E. ロビンズ著　大月書店　289.3ハ　篠崎ほか所蔵
『ダブリンの人びと』 ジェイムズ・ジョイス著　ちくま文庫　B933シ　篠崎ほか所蔵

『夜間飛行』
サン＝テグジュペリ著
光文社古典新訳文庫
B953サ
篠崎ほか所蔵

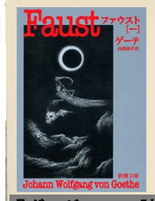
高所が苦手で飛行機には2回しか乗ったことがないのですが、「空を飛ぶこと」を描いた文章は好きです。『星の王子さま』のサン＝テグジュペリが著した本書には、南米を舞台に航空郵便事業の黎明期が描かれています。夕陽に輝く大地の上を飛び、夜の帳に向かってゆくパイロットたちの孤独と勇気、自然の猛威に抗いながら懸命に生きようとする姿。静かな感動で胸がいっぱいになります。

『注目すべき125通の手紙』 ショーン・アッシャー編　創元社　908チ　篠崎ほか所蔵
『あと千回の晩飯』 山田　風太郎著　朝日文庫　B914ヤ　篠崎ほか所蔵
『キャッチャー・イン・ザ・ライ』 J.D.サリンジャー著　白水社　J933サ　篠崎ほか所蔵
『深夜特急』1～6 沢木　耕太郎著　新潮文庫　B915サ1～6　篠崎ほか所蔵

『ニコライ遭難』改版
吉村　昭著
新潮文庫
BFヨ
篠崎ほか所蔵

1891年に訪日中のロシア帝国の皇太子・ニコライ(後のニコライ2世)が、滋賀県大津市で警備にあたっていた巡査・津田三蔵に突然斬りかかられ負傷した、暗殺未遂事件(大津事件)を描いた歴史小説です。

『オリエンタリズム』上・下 E.W.サイード著　平凡社　220サ1・2　篠崎ほか所蔵
『自殺論』 デュルケーム著　中公文庫　B368テ　篠崎所蔵
『ツァラトゥストラ』上・下 ニーチェ著　光文社古典新訳文庫　B134ニ1・2　篠崎ほか所蔵
『小林カツ代料理の辞典』 小林　カツ代著　朝日新聞出版　596コ　篠崎ほか所蔵



『ファウスト』第1部・第2部
ゲーテ著
新潮文庫
B942ケ1・2
篠崎ほか所蔵

24歳で書き始め、死の前年である82歳で書き終えたという大作。天才ゲーテをもってしても、完成するのに60年近くを要したこの作品を、じっくりと読んでみたい。そして、年齢を重ね経験を積んだことによって、学生時代に読んだ時以上に深く理解し、ゲーテの言葉が胸に染み込んでいく感覚を味わいたいのである。

『ボードレール詩集』 ボードレール著　みすず書房　951ホ　篠崎ほか所蔵
『尾崎放哉全句集』 尾崎　放哉著　ちくま文庫　B911オ　篠崎所蔵
『一握の砂・悲しき玩具』 石川　啄木著　新潮文庫　B911イ　篠崎ほか所蔵
『月下の一群』 堀口　大學訳　岩波文庫　B951ケ　篠崎ほか所蔵